

平和への想い 受け継がれるバトン

■問合せ…学校教育課(☎025-545-9244)



【後列】	鳥越 ^{そうた} 颯太さん 吉川中学校	岡田 ^{ゆい} 結さん 中郷中学校	佐 ^{のぞき} 戸幸太朗さん 板倉中学校	笹 ^{たくま} 川拓真さん 清里中学校	上 ^{なつき} 野渚月さん 三和中学校	松 ^{こたろう} 本虎太郎さん 名立中学校	榎 ^{えい} 原瑠依さん 上教大附属中学校	山 ^{たつや} 中達矢さん 直江津中等教育学校
【中列】	池 ^{ゆうき} 田夕稀さん 潮陵中学校	吉 ^さ 野紗良さん 東頸中学校	藤 ^{いつき} 沼樹さん 春日中学校	菅 ^{すがの} 野慶多さん 柿崎中学校	金 ^{しゅう} 井心優さん 牧中学校	瀧 ^{あやね} 本絢音さん 大瀧町中学校	池 ^{なつみ} 田奈津美さん 頸城中学校	
【前列】	藤 ^{ももは} 本桃羽さん 城北中学校	長 ^{はるか} 崎悠空さん 城東中学校	牛 ^{はると} 木悠斗さん 城西中学校	笹 ^{ゆき} 川ゆきさん 雄志中学校	福 ^{あき} 平亜紀さん 八千浦中学校	西 ^{みく} 條未来さん 直江津中学校	持 ^{さわ} 田沙和さん 直江津東中学校	

主なスケジュール



1日目

○袋町小学校平和資料館、平和記念資料館、平和記念公園見学

2日目

○平和記念式典、献花・献水慰霊式参列
○平和学習の集いに参加 ○灯ろう流し

3日目

○折り鶴の献納
○被爆遺構展示館、レストハウス見学

「平和」の大切さを次の世代に
平和な現代の日本に暮らす私たちにとって、戦争は他人事のように感じられますが、第二次世界大戦では広島と長崎に原子爆弾が投下され、日常の暮らしが突然奪われました。戦後80年を迎えた今年、戦争を知る人々の高齢化が一層進み、戦争の真相を語り継いでいくことは難しくなっています。

市では戦争の悲惨さや平和の尊さを学び、後世に伝えることを目的に、8月5日から7日までの3日間にわたり、次代を担う中学生の代表22人を広島へ派遣しました。今号では、彼らが体験し学んだ戦争の恐ろしさや平和への想いを紹介します。



広島平和記念式典
中学生派遣事業



想像以上の原爆の被害

清里中学校

笹川 拓真

私が派遣事業に参加した理由は、実際に原爆が投下されて広島市の町がどんな様子が変わってしまったのか、どんなことが起きてしまったのかを自分の目で確かめたいと思ったからです。

実際に広島を訪れてみて、平和記念資料館などには、「本当に80年前こんなことがあったのか」と思う写真がたくさん展示されていました。



広島に行って感じた

原爆と戦争の恐ろしさ

柿崎中学校

菅野 慶多

私は派遣事業に参加して、上越の仲間と共に原爆の恐ろしさや平和の大切さを学びました。現地での体験や出会いは、教科書やインターネットを通じた学びだけでは感じられないような重みがあり、私の心に深く残っています。

平和記念資料館や平和記念公園を訪れ、当時の写真や遺品、そして被

爆者の証言にも触れることができました。特に、今の私と同じ年の頃に被爆した人の証言はより身近に感じ、改めて原爆と戦争の恐ろしさ、悲惨さを知ることができました。

自分の言葉で届ける平和への想い

地域の方々が被爆の歴史や被爆した人の気持ちを次世代に伝えようと懸命に活動している姿に感動しました。式典の準備をする人、資料の保存や展示を支える人、平和に関するイベントを企画する人。それぞれが、自分の立場で「伝える」ために使命

目を背けてしまうほど悲惨な写真がいくつもあり、自分の想像をはるかに超えた惨状に心が痛みました。今私たちが過ごしているかけがえのない時間を大切にしたいと、改めて感じることができました。

若き語り手の一人に

私が一番心に残っていることは、平和学習の集いでの河野キヨ美さんの講演です。現在94歳の河野さんは、当時の出来事や今私たちに伝えたいことを教えてくださいました。なぜこの講演が一番心に残っているかと

感を持ち、世代を超えて歴史をつないでいることが分かりました。

今回の派遣事業を通じて私は、ただ知識として学ぶのではなく、自分の言葉で伝えていくことが大切だと学びました。平和は誰かが守ってくれるものではなく、私たち一人一人が考えて行動することで実現します。

この経験を忘れないで、私も平和のバトンをつないでいきたいです。



袋町小学校平和資料館で、展示品を見学する菅野さん



平和に関する青少年ボランティアの皆さんと意見交換する笹川さん